

美容室専売ヘアケアを オンラインストアで販売開始

美容室向けヘア化粧品で日本最大のミルボンは、美容室専売品のヘアケアアイテムを6月1日より、ミルボン公式オンラインストア「milbon::id」にて販売している。購入しやすい環境を提供することで「美容室へ買いに行く不便さ」によって購入を諦めていた顧客の悩みを解消し、さらには顧客のリピート購入を支えることで美容室の売上向上に貢献していく。「milbon::id」は、美容室側で販売管理し、美容室に売上が計上される仕組みとなっており、販売価格は各店舗が自由に設定可能で、売上代金は決済代行会社を通じて店舗へ入金される。サイトの運営から受注、商品発送業務までミルボンが行うため、物流業務の手間がないことが大きな特徴だ。

「milbon::id」で必要情報を登録するは、美容室がプラットフォーム「milbon::id」は昨年9月1日からスタートアップを開発し、顧客に商品を購入できるサービス。顧客は美容室から発行される専用のQRコードを使って

このオンラインストアは昨年9月1日からスタートしており、これまで「Aujua Personal Hair Care Program」を開発した化粧品ブランドを販売していた。6月1日からは「Aujua On/ミルボン」「Vila Loodola/Viラロドラ」のヘアケア商品がオンラインで販売できるようになる。購入できる商品も、店頭で購入できなかったが、「milbon::id」をスタートすることで、顧客にとっては店頭で購入していた商品をオンラインで購入できるようになる。結果、来店タイミングとは関係なく、顧客が欲しいタイミングで商品を提供できるようになった。

また、購入履歴は全て各美容室が管理するのラインでの販売が可能になる。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、一時的に休業した美容室も多くなり、外出自粛要請により、顧客にとっても美容室へ来店することが難しい状況となった影響で、ヘアケア商品の自宅への配送に関する相談が同社には多数寄せられていた。こうした状況を踏まえ、日頃利用している美容室での商品購入が難しい場合、一定の条件を満たす顧客については、自宅への配送を一時的な特別対応してきた。4月22日の開始以降、約1カ月間での相談件数は約1000件にも及んだ。

阪大の微生物病研究所と共同研究契約を締結

同社製品・除菌成分における新型コロナウイルス病原体(SARS-CoV-2)を用いた有効性評価試験を実施する。

同社では医療・福祉施設、公共施設、食品関連施設や一般家庭向けにエビデンスを重視した衛生関連製品の開発と感染症や食中毒予防対策など「衛生」に関する情報提供を行っている。特に微生物学的評価の実施においては、専門の部隊を設け、実に500名が、あくまでも代替ウイルス等を用いた評価結果であり、さらなる高度なエビデンスを構築するためには、新型コロナウイルス病原体を使用し、医療分野の他に食品、産業、家庭、公共施設などでの製品の使用を想定して、実使用に近い環境下での有効性を検証する必要がある。危険度に対応したバイオセーフティレベル(BSL)の実験室で取り扱う必要があるが、同社が有する研究施設では取り扱うことができなかった。

そこで今回は、大阪大学微生物病研究所と共同研究契約を締結。塩田達雄教授の協力のもと、BSL-3施設である感染症共同実験室にて検証試験を行っていく。

同試験では、国際的な標準試験法である欧州規格の中で、実際の環境を模した負荷物質を加えた条件においてウイルスに対する有効性評価を検証するEN14476を採用。取得した高度なエビデンスに基づき、新型コロナウイルス感染症対策の構築・提案・普及を行うことで、感染予防・感染者数の拡大防止に貢献する。

日華化学

繊維加工用抗菌防臭剤に抗ウイルス効果を確認

美容室市場向けに商品を提供する日華化学は、インターや医療用衣料等の繊維製品に実績のある抗菌防臭剤「ニッカノンRB」と、欧米市場向けの新型製品である「ニッカノンRB-40」に、抗ウイルス効果があることを確認した。

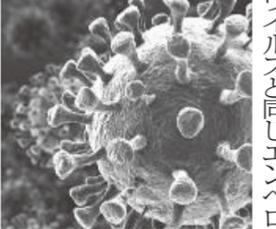
同社は、1プタイプインフルエンスウイルスに対する「ニッカノンRB」を加工した布が、繊維上のウイルスの数を2時間で99.9%以上減少させることを確認した。同評価は、繊維を中心とした生活用品全般の試験として実施された。

「ニッカノンRB-40」は、世界的に認定されたISO規格の1つである抗ウイルス試験を行ったため、今回の確認により、新型コロナウイルスにも同様の効果が見込めるという。

同社では医療・福祉施設、公共施設、食品関連施設や一般家庭向けにエビデンスを重視した衛生関連製品の開発と感染症や食中毒予防対策など「衛生」に関する情報提供を行っている。特に微生物学的評価の実施においては、専門の部隊を設け、実に500名が、あくまでも代替ウイルス等を用いた評価結果であり、さらなる高度なエビデンスを構築するためには、新型コロナウイルス病原体を使用し、医療分野の他に食品、産業、家庭、公共施設などでの製品の使用を想定して、実使用に近い環境下での有効性を検証する必要がある。危険度に対応したバイオセーフティレベル(BSL)の実験室で取り扱う必要があるが、同社が有する研究施設では取り扱うことができなかった。

そこで今回は、大阪大学微生物病研究所と共同研究契約を締結。塩田達雄教授の協力のもと、BSL-3施設である感染症共同実験室にて検証試験を行っていく。

同試験では、国際的な標準試験法である欧州規格の中で、実際の環境を模した負荷物質を加えた条件においてウイルスに対する有効性評価を検証するEN14476を採用。取得した高度なエビデンスに基づき、新型コロナウイルス感染症対策の構築・提案・普及を行うことで、感染予防・感染者数の拡大防止に貢献する。



新型コロナウイルス感染症拡大が続く中、対策の1つとして「ニッカノン」の抗ウイルス効果を検証したところ、新型コロナウイルスと同一エンベロ

「手洗いケア」の原料MAPを作成

「手洗いケアMAP」は、保湿剤のほか、天然いや消毒アルコールの使用が根づいていく中で、手洗い・消毒後のケア意識も高まっていくと考えられる。新習慣に対応する製品開発の参考になれば」と話す。

新型コロナウイルスの感染予防として手洗いの回数増加による手指の荒れなどの悩みが増えてきていることを受けて、ハンドケア製品に最適な機能性原料をまとめた「手洗いケアMAP」を作成した。

「手洗いケアMAP」は、保湿剤のほか、天然いや消毒アルコールの使用が根づいていく中で、手洗い・消毒後のケア意識も高まっていくと考えられる。新習慣に対応する製品開発の参考になれば」と話す。

